第一工科大学研究報告
第34号(2022)pp.148-152

近現代中国史研究の碩学 聞黎明先生小伝

丹野 健一郎

第一工科大学(東京上野キャンパス)
〒110-0005 東京都台東区上野7－7－4
e-mail: k.tanno@ueno.daiichi-koudai.ac.jp

A small biography by Prof. WenLiming, a scholar of modern Chinese studies

Kenichiro Tanno

Daiichi Institute of Technology（Tokyo Ueno campus）
7－7－4 Ueno Taito-ku Tokyo 110-0005 Japan
e-mail: k.tanno@ueno.daiichi-koudai.ac.jp

Abstract

Wen Liming(闻黎明), a Chinese historian, died on the afternoon of January 3, 2022. Wen liming was a descendant of Wen Yiduo(闻一多) and was an expert in Wen Yiduo research, Xinanlianhedaxue(西南联合大学) research, and Chinese political history research.

The author of this report was able to carry out research and research under the rigorous guidance and enthusiastic encouragement of Wen Liming, and was able to obtain a PhD from a graduate school in Beijing.

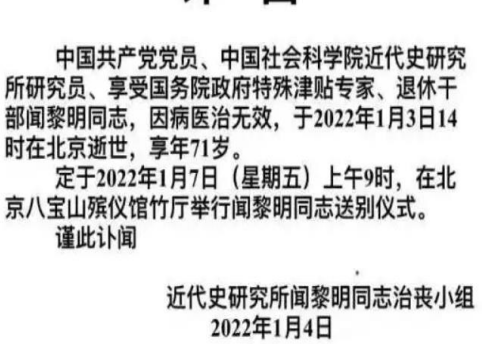
In this report, we would like to express our heartfelt gratitude and prayers for the soul of Wen Liming who died while looking back on the footsteps of Wen liming.

Keywords: Wen Liming Chinese historian 闻黎明

1. はじめに

中国社会科学院研究生院近代史系の教授だった聞黎明先生(写真1)が 2022 年 1 月 3 日に71 歳で逝去された。筆者と聞先生のつながりは、2005年 9 月の大学院進学からはじまり、大学院修了後、筆者の事情による日本への帰国後も断続的に連絡をとっていたところであった。聞黎明先生ご逝去の報(写真2)に接し、心より哀悼の意を捧げたい。あらためて、2005 年 9 月から聞黎明先生が外国人留学生として筆者を受け入れていただいたご縁、および、その後のご指導に感謝の気持ちを申し上げたい。そして、聞黎明先生の小伝を作成することは、まことに僭越なことではあるが、指導を受けたひとりの弟子のつとめとして、中国の近現代史研究の碩学のひとりともいうべき聞黎明先生の足跡を振り返りたいと思う。

（写真１）生前の聞黎明先生の写真
（闻一多长孙闻黎明来渝举办讲座の記事より）
http://news.sina.com.cn/o/2013-09-01/042928100615.shtml
新浪新聞中心（2022 年 3 月 23 日閲覧）



讣 告

中国共产党党员、中国社会科学院近代史研究所研究员、享受国务院政府特殊津贴专家、退休干部闻黎明同志，因病医治无效，于2022年1月3日14时在北京逝世，享年71岁。

定于2022年1月7日（星期五）上午9时，在北京八宝山殡仪馆竹厅举行闻黎明同志送别仪式。

谨此讣闻

近代史研究所闻黎明同志治丧小组
2022年1月4日

（写真2）聞黎明先生の所属先であった近代史研究所から出された聞黎明先生の訃報とその訳文（※筆者試訳）を以下に載せる。

訃　報

中国共産党党員、中国社会科学院近代史研究所研究員、国務院政府特別待遇専門家、退職幹部の聞黎明同志、闘病の結果、2022 年 1 月 3 日 14 時に北京で逝去、71 歳の生涯を閉じました。

2022 年 1 月 7 日（金曜日）午前 9 時より、北京市八宝山斎場竹ホールにて聞黎明同志の告別式を行います。

ここに謹んでご通知申し上げます。

近代史研究所聞黎明同志葬儀班
2022 年 1 月 4 日

2.その誕生から青年期まで

聞黎明先生は、中華人民共和国の建国から間もない 1950 年 9 月に陝西省西安市で（注 1）聞立雕の子として誕生（注 2）した。この他に、聞軍という名の妹がいる。なお、父親である聞立雕は、日中戦争当時、戦火を避けるために雲南省へ移動した大学により編成された西南連合大学の文学部長であり、詩人でもあった聞一多の次男である。公開されている（注 3）資料によると、聞立雕は、1928 年に誕生し、1948 年より陝西、新疆、北京にて革命事業に身をささげるとあるため、非常に困難な時代に聞黎明先生は幼少期を過ごしたことは、想像に難くない。青年期については、1966 年に北京市外交部街中学を卒業後、聞黎明氏が 2014 年 9 月に中国で出版された『私のかつての名前は知識青年（我曾经的名字叫知青）』（作者　子蘊　出版社　花山文芸出版社）に寄せた序文の中で、「1968 年には、北京から黒竜江省完達山の北麓にある七里嘎山の黒竜江生産建設兵団第 32 団に下放され、農作業に従事していたが、1969 年になると政治処の報道員となった」と説明している。その後、1973 年から 1974 年までは、新疆大学化学学部の実験助手として勤務した。さらに、1974 年に北京大学歴史系に入学し、1977 年からは、中国社会科学院近代史研究所に配属となっている。なお、この時代は、いわゆる文革時期にあたり、学制は小学5年制、中学＋高校で 4 年制、大学は3年制というスタイルが普及しているため、現在の大学在籍 4 年制は、1978 年 7 月の中国の大学入学統一試験の回復まで待たなくてはならなかった。1977 年に北京大学歴史系を卒業以降、中国社会科学院近代史研究所で史料編纂についての調査業務を開始し、後には祖父に当たる聞一多に関係する調査や中国近現代の政治的な活動をする知識人の研究に従事し、中国のいわゆる革命時代の資料の調査を通じて、この領域の研究に大きな貢献をした。

3. 主な著作、研究、教育活動等について

以下に主な聞黎明先生の著作物、論文をあげる。

＜著作物＞

『聞一多传』
（人民出版社　1992 年 10 月　のちに、『聞一多伝』　聞黎明、鈴木義昭による日本語訳　北京大学　2000 年として出版）

『中国复兴枢纽　抗日戦争的八年』
（北京出版社　1995 年）

『現代学術史上的胡適』
（共著　三联出版社　1996 年）

『詩人　学者　民主闘士　聞一多』
（中国撮影出版社　1996 年）

『西方民主与近代中国』
（中国青年出版社　2003 年）

『第三种力量与抗战时期的中国政治』
（上海書店出版社　2004 年）

『聞一多画传』
（河南人文出版社　2005 年）、

『抗日战争与中国知识分子——西南联合大学的抗战轨迹』

（社会科学文献出版社　2009 年）
『聞一多　涅槃的凤凰』
（秀威諮詢科技股份有限公司　2010 年）
『聞一多（民盟历史人物）』
（群言出版社 2012 年）
『闻一多年谱长编』
（上海交通大学出版社 2014 年）
『西南联大・闻一多 ： 走向现代化的中国知识分子』
（人民出版社　2016 年）

＜論文＞
《处理地震历史资料的几个问题》　（『地震』1981 年 5 月）
《元代地震后更改地名一事浅议》（『地震』1983 年 10 月）
《梅贻琦日记选》书后　侯菊坤共著、（『近代史研究』1990 年 3 月）
论一二一运动中的大学教授与联大教授会—中国 40 年代的自由主义考察之一
（『近代史研究』　1992 年 8 月）
王世杰与国民参政会（1938-1944）
（『抗日战争研究』　1993 年 10 月）
论抗日战争时期教授群体转变的几个因素——以国立西南联合大学为例的个案研究
（『近代史研究』　1994 年 9 月）
国防参议会简论
（『抗日战争研究』　1995 年 5 月）
1944 年：中国社会的历史性转捩——兼论民族工商业者“问政”的原因
（『近代史研究』　1995 年 7 月）
闻一多与“大江会”——试析 20 年代留美学生的“国家主义观”
（『近代史研究』　1996 年 7 月）
“国民大会议政会”刍议—抗战时期改革中央政治体制的重大设计
（『抗日战争研究』1996 年 9 月）
黄炎培与抗日战争时期的第二次宪政运动
（『近代史研究』　1997 年 9 月）
抗日战争时期的中国第三种力量
（『抗日战争研究』　1998 年 6 月）
六参政员访问延安再研究
（『抗日战争研究』　1999 年 6 月）
皖南事变时期的中间党派--关于中间势力的研究
（『抗日战争研究』　2002 年 12 月）
长沙临时大学湘黔滇“小长征”述论
（『抗日战争研究』　2005 年 3 月）
美国对李公朴、闻一多被刺事件的反应与对策--李闻惨案再研究之一
（『江汉论坛』　2006 年 11 月）
历史的口碑 有益的尝试--读齐红深先生的《流亡--抗战期间东北流亡学生口述历史》
（『教育科学』　2009 年 4 月）
战时中国知识精英对战后处置日本问题的若干思考
（『史学月刊』2009 年 8 月）
“有田-克莱琪协定”在中国的反响--以西南联大国际问题专家的观察与评析为中心
（『史学月刊』2010 年 2 月）
关于西南联合大学战时从军运动的考察
（『抗日战争研究』2011 年 7 月）
李闻惨案之善后
（『近代史研究』2011 年 7 月）
闻一多参加大江会始末
（『江淮文史』2013 年 3 月）
西南联合大学的青年远征军
（『江淮文史』2014 年 3 月）
中国知识精英对战后处理日本的主张
（『江淮文史』2017 年 11 月）
闻一多与民盟--一个爱国知识分子的选择与归宿
（『群言』2019 年 11 月）
闻一多与中国民主同盟
（『黄冈师范学院学报』2020 年 2 月）
子女笔下的闻一多
（『群言』2020 年 11 月）

などがある。（このほかにもあるが、紙幅の都合上、割愛することをご容赦いただきたい。）

さらに、教育活動としては、中国社会科学院研究生院近代史系の大学院教授、河南大学や雲南大学、雲南師範大学などでは教授や特別研究員として、調査活動だけでなく、多くの歴史研究を志す若者たちを育てていたことから、聞黎明先生のご逝去以降、聞黎明先生と関係のあった多くの関係者が追悼文を発表している。このほかにも、日本国内では慶應義塾大学、早稲田大学、二松学舎大学、桜美林大学で客員教授や特任教授、客員研究員として、さらに、台湾の研究機関の客員研究員として関係する

資料の収集、さらに中国の聞一多研究会や現代史学会、中国の地震研究の学会などの団体でも要職に就いていた。なお、1997 年には中国政府の特別待遇を受ける専門家としての名誉を受け、2013 年 9 月には近代史研究所を退職する。

ところで、筆者が聞黎明先生のことを知るきっかけとなったのは、中国社会科学院の聞黎明先生が桜美林大学へ招聘された際に、当時、聞黎明先生と深い交流のあった当時の文学部中国語中国文学科の教員であった南條克己先生や植田渥雄先生から、聞黎明先生のご紹介を受けたことがきっかけである。当時、筆者は北京市内の大学で日本語学科の教員として働きながら大学院の受験準備をすすめ、2005 年 9 月から中国社会科学院研究生院近代史系の博士課程に進学が決まったことから、聞黎明先生が主宰する研究室の学生となった次第である。

4. ひとりの聞一多の研究者として

聞黎明先生は、中国近現代史における当時の中国の知識人たちの研究を進めていた。この中で、聞黎明先生は、特に近代中国の文化人のひとりであり、のちには当時の国民党の腐敗と国共内戦に反対する運動のメンバーでもあった李公僕の追悼会に参加し、その帰り道に、当時は国民党の特務機関の関係者とされる者の手により暗殺されたとされる聞一多(写真 3)の研究者でもあった。

（写真 3）昆明西倉坂の西南連大宿舎前にて
https://www.nfpeople.com/article/9744
南方人物周刊　（2022 年 3 月 23 日閲覧）

たとえば、1994 年に湖北人民出版社が出版した『聞一多年譜長編』は、聞黎明先生の心血を注いだ著作であり、聞黎明先生が以前に揚州で発表された(注 4)『第 1 回中華口述史ハイレベルフォーラム』での表現を借りるならば「聞一多の研究者たちが資料を探す時間を節約できるようにするため」という記述からもこの領域の研究をする者に対して非常に丁寧な構成を心がけていたことがうかがえるだろう。いうまでもなく、聞黎明先生は聞一多から見ると孫にあたるが、実際には面識がない。しかし、小さいころから、父親の聞立雕、および、周囲から祖父である聞一多のことを聞かされて育ったことを本稿の筆者も院生のころに聞黎明先生のご自宅や研究室で伺ったことがあった。そのほとんどは、聞一多が活躍した当時の時代背景についての説明などであったが、振り返って、過去の資料としてみる写真の中の聞一多の姿と聞黎明先生が重なってしまうのは、筆者だけが思ってしまうことではないだろう。

なお、聞黎明先生は、聞一多に関する研究だけでなく、学生への指導と並行して、1949 年までの中国共産党を中心とする新民主主義革命史を発掘するため、当時のことを体験し、記憶もしている関係者たちに対するインタビュー調査も進めていたようであったが、インタビュー対象者がすでに高齢、あるいは重い病気のため等の事情から、思うように調査が進まないことがあった。そのことを本稿の筆者自身が博士論文の指導の際に知り、いわゆる「口述史（オーラル・ヒストリー）」に関するいくつかのアドバイスを聞黎明先生より伺ったことで、学位論文の執筆に苦労していた筆者に一筋の光明がさしてきたことは言うまでもない。特に、新型コロナウイルス感染症の影響が世界に広がる前までは、積極的に(写真 4) 聞一多の足跡をたどる旅、あるいは西南連合大学に関係する調査活動を精力的に行っていたところであった。

（写真４）2015 年 7 月に開かれた聞一多展覧会で長女の聞亭さんと一緒に参観　新浪財経
http://finance.sina.com.cn/jjxw/2022-01-04/doc-ikyakumx8200876.shtml　（2022 年 3 月 23 日閲覧）

5. 聞黎明先生の歴史研究に対する姿勢

聞黎明先生の歴史研究に対する姿勢は、これまでの研究成果を見れば、一目瞭然であり、その姿勢は、歴史の事実を掘り起こすことにあるといえる。例えば、聞一多に関する調査の中で、創成期のころの共産党と国民党左派の殴り合いのけんかについての記録があり、この内容について聞黎明先生の表現を借りるならば(注 4)「……1926 年に聞一多が北平(筆者注；現在の北京）で中国共産党と国民党左派が暴力事件を起こしたという内容を書いているが、これは過去において、誰も提起したことがない……」とあり、ご自身が別の資料から発見した当時の新聞資料で確認したうえで、「……私がこのようにするのは（筆者注；暴力事件のこと）……私は歴史研究者の最低限のルールとして歴史を尊重することである」と歴史研究者としてのなすべきことを明らかにしている。おそらくは、このような意見を述べられた調査当時の歴史研究を取り巻く様々な事情からこのような表現をされたのだろうと推察するが、非常に味わい深い言い方であり、聞黎明先生の後に続く歴史研究者たちに対して、常に心にとどめておくべきアドバイスでもあろう。

６．おわりに

2022 年の年が明けた 1 月 3 日のこと、聞黎明先生の個人的な SNS のプロフィール写真が急に白黒写真になったことを知り、何か不吉な予感がした。その後、聞黎明先生の訃報を知ることとなり、聞黎明先生と交流のあった多くの関係者が哀悼の意を伝える内容のメッセージを中国の SNS や（注 5）中国現地の新聞記事に投稿しており、生前の聞黎明先生の人柄が偲ばれる内容となっていることは言うまでもない。

筆者自身、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響のため、2022 年 1 月に中国・北京で行われた聞黎明先生のお葬式に参加することはできなかったが、インターネット経由で花輪を斎場におくることができた。しかし、直接、聞黎明先生のお別れ会に参加できなかったことが悔やまれてならない。さらに、現在（※2022 年 5 月）も続くコロナ禍のため、聞黎明先生の墓前にも参れないため、非常にもどかしい。聞黎明先生のご逝去は、あまりにも早く、残念でならない。

最後に聞黎明先生との記憶を思い出せば、非常に多くあるが、中でも生前に、聞黎明先生の部屋へお邪魔すると、ご家族からは「禁煙中」と聞かされてはいたが、某絵柄の描かれた中国製のメンソールのタバコを愛用されていた。ある晴れた午後の時間に、論文のことで相談をするために伺うと、タバコの煙をくゆらせながら、少し早口で話してくれた聞黎明先生が懐かしい。改めて、中国近現代史の碩学のひとりである聞黎明先生のご逝去に際し、かつてご指導いただいたひとりの日本の留学生として、心より哀悼の意として自作の漢詩（および、書き下し文）をささげたい。

闻老师一生勤耕
书墨如山育后人
桃李香薫满天下
功名永久留青史

聞老師は一生を耕作することに勤しみ
書墨は山のごとし後に続く人を育てる
桃李はよい香りを薫らせ天下に満つる
功績と名声は永く久しく青史に留める

＜注釈、および参考文献＞

（注 1）別の名を韋英ともいう。聞一多が凶弾に倒れた際に同じく現場に居合わせ、その際の銃撃で大けがを負った長男の聞立鶴のこともあり、後に生命の安全のため、韋英と改名した。

（注 2）戸籍上は湖北省浠水出身となっている。

（注 3）诗人的主要天赋是”“爱”
-闻立雕先生讲述父亲闻一多- 西城区第一图书馆
http://218.249.168.11:8080/index.php/content/index/id/3351.html
(2022 年 5 月 1 日　閲覧)

（注 4）略议“口述史”—兼及口述采的若干体会　闻黎明
首届中华口述史高级论坛
https://www.chinafolklore.org/web/index.php
(2022 年 5 月 1 日　閲覧)

（注 5）胸中浩浩荡荡 一枕高甜—送别闻黎明先生
杨潇　北京青年报
https://app.bjtitle.com/8816/newshow.php?newsid=6072906&typeid=99&uid=0&did=&mood
(2022 年 5 月 1 日　閲覧)